

・日中は暖かくて良い天気ですね。朝晩もこうだと良いのですが。

菊地貴光

森 紀二、大野 弘、武藤正雄、小池和義、宮坂真志

小計 9,000 円

委員会報告

■国際奉仕委員会

菊地貴光委員

台北百城扶輪社との合同例会・懇親会詳細はすでにメールで杜さん（台北百城扶輪社）にお知らせしています。会場については東武ホテルレバント東京（錦糸町）3 階（藤菊）で合同例会を行った後、会場を 24 階（レストラン&バー・籬）へ移して懇親会となります。宿泊ホテル、来日人数と来日時刻について現在問い合わせをしているところです。例会スタート時間は先方の希望に沿う形になりますので返信を待つて決めることとなります。

■山下良雄直前会長

私が会長を務めたとき台北百城扶輪社から東日本大震災に対して多額の義援金をいただいております。今回の訪問は感謝の意をもってお迎えしたいと思っています。

クラブフォーラム

<会員増強活動進捗状況>

山下良雄会員増強・退会防止委員長：

先日の増強活動で訪問した 4 名の皆さんを 27 日の夜間例会へお誘いしたいと考えています。その中に入会希望者もいらっしゃいますので、例会の様子を見てもらった上で検討していただくような形にしたいと思います。皆様には会員数 20 名達成に向けて更なるご協力をお願い致します。

菊地会員：今回の J C 卒業メンバーは私を含めて 6 名、そのうち 2 名はライオンズクラブへ入会。残念ながら他の方はロータリーへの入会を希望していない。

佐々岡会員：店にパンフレットを置いて声かけをしている。例会の様子を見てもらうために一度誘ってみたい。

■出席報告

宮坂真志委員

会員数	出席除	出席数	欠席数	MU	出席率
16 名	1 名	11 名		2 名	86.66%

『友』2 月号より

災害時の危機管理とは 元狹山市消防団長 河合芳昭

現代人は危険の少ない社会で生活しているため、いざ災害が起きても、これまでの経験から「自分だけは大丈夫」と思い込んでしまいがちです。この意識を「正常性バイアス」と呼びます。

例えば、2001 年 9 月 11 日の同時多発テロ発生直後、世界貿易センタービルで、「警察官が避難誘導に来るまで待つ」とのアナウンスにより安心だと思ひ込み、多くの人たちが犠牲になりました。2003 年 2 月の韓国では、地下鉄構内で放火された電車から煙が出ているにもかかわらず、隣に停車する電車内の乗客のほとんどが避難せず、約 200 人の犠牲者が出てしまいました。この 2 つの例は世界的な大きい災

害ですが、私たちの身の回りにも起こる危険があります。

ではどうしたら「正常性バイアス」を打ち破ることができるでしょうか。それは、「常に何か起こるかもしれない」「起こったときの行動を常に頭に入れておく」など、訓練することだと思います。

釜石市の津波防災教育に、「想定にとらわれない、最善を尽くせ、率先避難者たれ」という避難の三原則があります。2011 年 3 月 11 日の地震直後、鶴住居地区では中学生が率先して高台に向けて走り、これを見た近くの小学生が懸命に続きました。避難場所の福祉施設に着いても、さらに高台の介護施設に向かいました。間もなく最初にたどり着いた避難場所の福祉施設は津波にのまれてしまいました。

子どもたちはなぜそこまでできたのでしょうか。それは、命を守る姿勢を身につける防災教育を続けてきたことが大きいと思います。釜石市全体では、死者・行方不明者は 1000 人を超えましたが、その 65% がハザードマップの想定では津波が押し寄せないはずの「浸水想定区域外」に居住していた人たちでした。想定に頼りきった防災ではいけない。避難の三原則を広める必要があります。

万が一、災害が発生したときに、家族全員が自分の命に責任を持ち、それぞれ「逃げているはずだ」と互いに信頼し合っていることが最大の危機管理の行動であることを知ってもらいたいです。

東日本震災復興基金日本委員会からの報告(5)から一部抜粋
東日本震災復興基金日本委員会委員長 小沢一彦(横須賀 RC)

東日本震災復興基金日本委員会への申請が 2011 年 12 月末で 200 件を超え、既に承認されたプロジェクトは 100 件になります。承認された各プロジェクトの実行も着々と進み、地域の人たち、そしてそのプロジェクトを実施されたロータリークラブの会員の方々のうれしいお知らせも届き始めています。しかし、その半面、季節が巡り、厳しい冬が到来し、冬ならではのニーズも高まってきています。復興基金を受けたクラブ、地区は、プロジェクト(支払い)が終了して 2 か月以内に報告書を提出することになっています。報告書と日本委員会の会計の監査もその都度受けて国際ロータリー世界本部へ提出することになりますが、11 月 1 日、12 月 27 日に監査をお願いし、既に 2 階本部へ提出しています。東日本震災復興基金日本委員会では、経費をすべて自己負担で活動していることをお伝えしておりますが、この責任ある役割を公認会計士の土屋善敬会員(藤沢東 RC)が無償で引き受けてくれています。プロジェクトが実施される過程で日本各地のロータリアンが現地を訪れたり、その地のロータリアンと交流することによって他にも目に見えないところで多くの人たちの善意の協力があり、そこから友情の絆が生まれていくことも感じています。それが継続的に被災地を支えていく力になっていくのではないかと期待もしています。復興基金の 12 月 22 日現在の状況は次の通りです。

現金寄付・DDFによる寄付	総計	\$6,221,966
34 件のマッチング・グラント承認		\$1,094,577
日本委員会プロジェクト承認		\$3,997,483
現在の残高		\$1,129,906

全てのプロジェクトは 3 月 31 日まで受け付けています。